

第6次松崎町総合計画 令和6年度事業評価総括表

「この1年間の取り組み」の5段階評価結果

(評価基準)

A：目標を上回るものだった

B：目標は達成できた

C：目標は概ね達成できた

D：目標に達しない取り組みが多かった

E：ほとんど目標を達成できなかった

| | A | B | C | D | E | 計 |
|-------|---|----|----|---|---|----|
| 総務課 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| 企画観光課 | 0 | 10 | 7 | 2 | 0 | 19 |
| 産業建設課 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 3 |
| 健康福祉課 | 0 | 7 | 5 | 0 | 0 | 12 |
| 窓口税務課 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 生活環境課 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 3 |
| 教育委員会 | 0 | 11 | 2 | 1 | 0 | 14 |
| 計 | 0 | 33 | 21 | 4 | 0 | 58 |

目標指標

| | 目標(R9) 達成 | 現状値を 上回った | 現状維持 | 現状値を 下回った | 計 |
|-------|--------------|--------------|------|--------------|----|
| 総務課 | 2 | 0 | 1 | 1 | 4 |
| 企画観光課 | 2 | 3 | 1 | 3 | 9 |
| 産業建設課 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| 健康福祉課 | 3 | 0 | 1 | 2 | 6 |
| 窓口税務課 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 生活環境課 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 教育委員会 | 0 | 4 | 2 | 2 | 8 |
| 計 | 9 | 9 | 6 | 9 | 33 |

※スマートフォン利用率は総合計画策定時のアンケート調査結果に基づく指標で毎年度の評価はできない

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | |
|--------------|----------------|--------------------------------|---|--|--|--|---|---|--------|---------|-------|---------|---------|-------|---------|
| | | | | | | | | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | | | |
| I | 第1節 危機管理体制の強化 | ① | 災害に対する対応 (総務課) | 各種ライフラインの復旧や住民の避難に係る団体との災害復旧のための取り決めについて、事前に協定を締結することにより、発災時において、復旧作業や住民避難について早期に対応がとれる環境を整備しておく。また、発災時の各自の避難計画となる「私の避難計画(マイタイムライン)」の策定を促進する。 | R6年度は、葬祭業者やLPガス協会、青森県今別町との災害に関する協定を3件締結した。住民に対しては、年3回の訓練のほか、自主防災会長および各地区防災委員に対し、研修会を開催し、防災意識の向上に努めた。 | C | ・R7年度に災害対応の強化を図るため、災害対策本部運営訓練を実施する。 ・地域防災計画の全体的な見直しを図るため、防災会議を開催する。 ・健康福祉課において、個別避難計画の作成が進んでいくよう、必要な支援等を行う。 | 計画 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | 1P～ | ② | 防災対策の推進 (総務課) | 南海トラフ地震等による津波災害に備えるため、津波避難地区内に3基の津波避難タワーを整備する。現在は西区地内に1基整備されているが、津波避難が困難な地域に2基の津波避難タワーを整備する。 鮎川地区内に防災公園を整備しその中にヘリポートを整備する。 | R6年度は、R5年度に南区から津波避難タワー建設要望書が提出されたことから、建設候補地について検討を行った。また、東区、宮内区から建設要望書が提出された。 津波避難タワーの建設にあたっては、国の都市防災総合推進事業交付金を活用して実施を考えているが、交付金は町内全域で津波避難困難地域を解消する計画を作成しなければならないため、計画の作成を進めている。 町の災害備品に関しては、LEDバルーンライトやカセットガス式発電機、車椅子用トイレ等を購入した。 備蓄食料は新たに13,800食購入して53,120食に、飲料水は新たに3,000ℓ整備して24,415ℓとなった。 | C | ・R7年度には、津波避難タワーの建設予定を決定するため、都市防災事業計画を作成する。また、町内全域を対象に整備計画を作成し、事業を推進する。 ・備蓄食料・飲料については、計画的に備蓄数を増やし、目標値を目指す。 ・防災公園の整備について、整備スケジュールを組み、計画的に進めていく。 | 計画 | 5,400 | 0 | 3,600 | 0 | 0 | 1,800 |
| | | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | △ 5,400 | 0 | △ 3,600 | 0 | 0 | △ 1,800 |
| | 第2節 消防・救急体制の強化 | ① | 消防体制の強化 (総務課) | 各小隊が昼間でも活動できるよう人員の確保を進めるとともに、分団、小隊の再編や見直しを検討する。また、各種の消防資機材を導入し、発災時には消防団として対応できる体制を築いていく。 | R6年度は、ホースや防火服等の資機材を整備した。人員の確保においては、これまで役場職員がつける最上級階級は部長までとしていたが、R7年度以降は、副分団長にも就けるよう調整した。 また、消防車の運転要員の確保を図るため、R7年度から、自動車の運転免許の取得費助成制度を開始できるよう調整を行った。 小隊の編制については、協議が進んでいない状況である。 | C | 必要な資機材の整備を行う。また、人員の確保に当たっては、小隊編成の協議を進める。 | 計画 | 3,000 | 0 | 1,000 | 0 | 0 | 2,000 | |
| | | | | | | | | 実績 | 12,104 | 0 | 3,995 | 0 | 0 | 8,109 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 9,104 | 0 | 2,995 | 0 | 0 | 6,109 | |
| | | 7P～ | ② | 応急手当に関する技術の普及啓発 (総務課) | 救急救命講習会の開催 応急手当の講習会の開催 AEDの公共施設等への導入 | R6年度において、従来行ってきた普通救命講習ではなく、応急手当なども合わせて学べる形で研修を実施し、58名の団員が受講した。 また、町が整備しているAEDのバッテリーの交換も実施した。 | C | 消防団員以外にも応急手当を学んでもらえるよう、講習等の周知を行っていく。 | 計画 | 300 | 0 | 100 | 0 | 0 | 200 |
| | | | | | | | | | 実績 | 424 | 0 | 141 | 0 | 0 | 283 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | 124 | 0 | 41 | 0 | 0 | 83 |
| 第3節 地域福祉の充実 | ① | きょうどうで進める (健康福祉課) | ボランティア活動や地区サロン活動を推進するために、拠点となる社会福祉協議会の運営費及びボランティア団体等の運営費を補助するとともに地域支え合い事業を推進し、「きょうどうの輪」を広げていく。 | ボランティア団体による月1回の配食サービス、毎日型給食サービスの実施により、地域高齢者等とのコミュニケーション、見守り活動として地域の方々の支え合いの仕組みが創出された。 サロンの一覧やボランティアの募集などを広報し、地域活動への参画へつなげることができた。 | B | 継続して地域でささえあう地域づくりのため、ボランティア活動団体への支援を実施するとともに、地域で支え合うH&H事業の支援者を増加するよう努める。また、地区サロンの活動がより充実したものとなるよう、講師派遣や運営者向けの予防教室や情報交換の場などを提供していく。 | 計画 | 20,221 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20,221 | | |
| | | | | | | | 実績 | 17,730 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17,730 | | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 2,491 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 2,491 | | |
| | 13P～ | ② | 多様な人の参加 (健康福祉課) | 松崎町シルバー人材センターへの補助や認知症サポーター養成講座の開催。 | シルバー人材センターの安定的な運営を支援することにより、退職世代の技術や知識を活かし、活躍できる場の提供を実施することができた。 また、若年世代の福祉意識の向上のため福祉教育の一環として認知症サポーター養成講座を実施した。 | B | 少子高齢化による人口減少が急激に進む中、退職世代の力が地域で支え合う地域づくりに必要となる。継続して退職世代の活躍を提供するため、シルバー人材センターの運営支援を実施する。 | 計画 | 2,030 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,030 | |
| | | | | | | | | 実績 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,000 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 30 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 30 | |
| 第4節 高齢者福祉の充実 | ① | 保健事業と介護予防の一体的実施 (健康福祉課) | 地区サロンや地域社会活動などへの積極的な参加を促すとともに、家庭訪問を通じた生活改善や必要なサービスへの接続、健康診査(特定健診)受診者の増加を目指した受診勧奨、保健指導による重度化防止を行う。 | ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に係る基本方針、実施計画書を策定。 ・ハイリスクアプローチとして、健康状態不明者対策で対象者23人中、20人に訪問し、生活状況の把握ができた。ポピュレーションアプローチとして町内8箇所の通いの場に出向き、合計101人に対し、血圧測定やフレイル予防の健康相談・運動を実施した。 | B | ハイリスクアプローチについては、比較的若くて元気な年代に健診受診を促す。ポピュレーションアプローチについては、通いの場等を増やしていけるよう周知していく。 | 計画 | 3,500 | 875 | 437 | 0 | 1,750 | 438 | | |
| | | | | | | | 実績 | 1,506 | 1,506 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 1,994 | 631 | △ 437 | 0 | △ 1,750 | △ 438 | | |
| | 19P～ | ② | 地域包括ケアシステムの構築 (健康福祉課) | 医療・介護・介護予防・住まい・生活支援サービスの充実を図るため、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築していく。 ・医療体制の整備 ・生活支援サービスの充実 等 | ・医療機関への委託により、他職種による研修、情報共有をし、連携強化を図った。松崎・西伊豆管内では7月9日、3月19日に連携会議を開催。役場、地域包括支援センター、医療機関、介護施設、薬局、賀茂健康福祉センターなどが出席した。また、看取りについての講演会などを行った。 | C | 地区サロンや地域社会活動などへの積極的な参加を促進する。 重症化防止のための取り組みと生活支援や介護保険サービスの充実をはかり、必要なサービスに接続する。 | 計画 | 1,640 | 552 | 276 | 0 | 329 | 483 | |
| | | | | | | | | 実績 | 1,146 | 419 | 210 | 0 | 250 | 267 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 494 | △ 133 | △ 66 | 0 | △ 79 | △ 216 | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | |
|----------------------------|--------|--------|----------------------|---|---|--|--|---|---------|---------|--------|--------|-------|---------|---------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | |
| 第5節 障がい者福祉の充実 | ① | 27～28P | 意識啓発の推進 (健康福祉課) | 各種福祉団体のPR、企業や行政機関による障害者などの役に立つ情報の提供などを行うことで、一般住民と関係団体の交流の場とする。 近年実施していない「ふれあい広場」に変わる交流の場を検討していく。 | ・障害者自立支援協議会の地域移行部会をはじめ各部会に出席し、障害者支援に関する課題の確認、支援方法等について検討した。 ・入院施設から障害者施設を経由し、有料老人ホームへの入所へのスムーズな移行を支援した。 | C | 他市町との連携、事例等を参考に施設入所者等の地域移行について移行しやすい支援体制の確保に努める。 福祉意識の啓発については、社会福祉協議会を中心に関係機関との連携を図り、障害者週間等を活用してキャンペーンを実施するなど福祉意識の啓発に努める。 | 計画 | 362 | 0 | 0 | 0 | 0 | 362 | |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 362 | 0 | 0 | 0 | △ 362 | | |
| | 25P～ | ② | 29～30P | 地域における生活支援体制の充実 (健康福祉課) | 乳幼児健診等を着実にを行い、障がいのある子の早期発見や保護者の相談に対応し、サービス等に繋げていく。 自立支援給付(訪問系や日中活動系、居住系のサービス)や医療費助成、補装具の支給などを行うことにより、地域で安心して自立した生活が送れるよう支援していく。 | ・身体障害・知的障害・精神障害の各専門事業所に相談業務の委託を実施し、障害者を支援すべく相談支援体制を継続して確保した。 ・障害者の家族、相談支援委託事業所、障害サービス提供事業所との連携を図り、障害者及びその家族の意向にマッチした障害サービスの提供を行った。 | C | 相談支援事業所、福祉サービス提供事業所等との連携を図り、障害者や障害児及びその保護者が生活しやすい支援体制の確保に努める。 | 計画 | 154,150 | 76,108 | 38,054 | 0 | 0 | 39,988 |
| | | | | | | | | | 実績 | 184,056 | 83,606 | 41,802 | 0 | 0 | 58,648 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | 29,906 | 7,498 | 3,748 | 0 | 0 | 18,660 |
| 第6節 保健・医療体制の充実 | ① | 33～34P | 成人保健の充実 (健康福祉課) | がん検診等は医療機関等に委託し実施。特定健診の結果から、高血圧、糖尿病、脂質異常症、腎不全、メタボリックシンドロームに該当する者について個別指導を行うことで重症化予防を図る。 | ・40歳の方は全員へ受診勧奨の案内通知を送付。検診車で地区を回る検診では胃がん・肺がん・大腸がんを、環境改善センターで実施する特定健診では、肺がん・大腸がん・前立腺がん検診を、医療機関委託の乳がん・子宮がん検診も同日実施で行い利便性を図っている。また、保健委員に地区住民への特定健診やがん検診受診の声かけを依頼、健康マイレージ事業の周知も行った。要精密検査未受診者への1度目の受診勧奨を賀茂医師会へ委託、それでも受診しない方へはもう1度受診勧奨の通知を実施している。 ・業者委託で、特定健診会場で1度以上(140/90以上)の高血圧の方へ受診勧奨および生活習慣の指導を実施。また、その後、医療機関を受診したか、生活習慣は改善されたかのアンケート調査、電話確認を実施した。その他の生活習慣病重症化予防指導、特定保健指導も自前で実施している。 ・若い年齢層をターゲットとした運動教室は、今年度は下田のタニタフィッツミーに運営を委託して行った。 | B | がん検診や特定健診の受診率の向上と、特定健診の事後指導や事後教室等の充実に重点を置き実施していく。 | 計画 | 12,630 | 904 | 0 | 0 | 0 | 11,726 | |
| | | | | | | | | 実績 | 8,847 | 72 | 0 | 0 | 306 | 8,469 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 3,783 | △ 832 | 0 | 0 | 306 | △ 3,257 | |
| | 31P～ | ② | 35～36P | 母子保健の充実 (健康福祉課) | 妊娠期からの継続的な相談や訪問、健診や教室を実施し、子どもの健全な成長の支援と相談しやすい環境を作る。また、学校等と連携した食育の実施や食育連絡会での情報交換により、健康な食生活の確立のための連携を図る。 | ・子育て支援アプリでは情報発信の機会が少なかった。西伊豆町と合同で行っていた療育教室は児童館事業の中で児童館職員と保健師とで実施した。幼児健診について賀茂での広域実施に向けて話し合いを開始した。 ・管理栄養士が不在となり、保健師や在宅栄養士で実施する体制が整わず、食育連絡会や食育事業、栄養相談事業も休止となった。 | B | 妊娠期からの相談体制の充実に重点を置き実施していく。 | 計画 | 19,058 | 422 | 3,309 | 0 | 0 | 15,327 |
| | | | | | | | | | 実績 | 14,844 | 452 | 3,422 | 0 | 1,027 | 9,943 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | △ 4,214 | 30 | 113 | 0 | 1,027 | △ 5,384 |
| | 37～38P | ③ | 保健医療体制の充実 (健康福祉課) | 予防接種は医療機関に委託し個別接種を実施。賀茂圏域内外の医療機関と連携し接種率向上につなげる。 医療提供体制の充実を図るため、巡回診療や訪問診療等の検討をする。 | ・令和6年度に定期接種に新たに追加された予防接種(5種混合・コロナなど)があり、スムーズに接種できるよう個別の通知やホームページ、回覧等実施し周知した。また、任意接種の帯状疱疹ワクチンの助成を実施した。 ・新たな医療体制を検討するため、巡回診療やオンライン診療について、医療機関に聞き取りを実施したり業者等から情報収集を行った。 | C | 医療体制の方針を検討・決定していく。 | 計画 | 15,539 | 143 | 0 | 0 | 0 | 15,396 | |
| | | | | | | | | 実績 | 19,046 | 124 | 0 | 0 | 5,644 | 13,278 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 3,507 | △ 19 | 0 | 0 | 5,644 | △ 2,118 | |
| 第7節 人権尊重・LGBTQ+の推進 39P～ | ① | 41～42P | 女性登用の機会拡大 (教育委員会) | 町職員や町民に対し、男女共同参画社会のあり方について普及啓発を図る。 | 静岡県男女共同参画センターの協力を得て「女性防災リーダー育成事業」などを実施することができた。 | B | 引き続きジェンダーフリーの啓発に力を入れる | 計画 | 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 500 | |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 500 | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | |
|-------------|-----------------|----------------------|---|---|---|--|---|---|---------|---------|--------|--------|---------|--------|---------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | |
| Ⅱ | 第1節 子育て支援の充実 | ① | 子育て支援の充実 (健康福祉課) | 奨学金貸付や教育資金利子補給、出産祝い金と子育て支援祝い品の支給。また放課後児童クラブの実施などを行う。 | 子育て世帯の経済的負担軽減のため、教育資金利子補給や奨学金貸付などの事業を継続して実施した。奨学金については、貸付対象者の拡大のため、令和7年度から6年制大学部(医学・薬学部等)へも対応できるよう要綱の改正を行った。 また、低所得者世帯(住民税非課税・均等割のみ課税)の子育て世帯への給付金の支給を実施した。 | B | 教育資金利子補給金制度や奨学金制度の更なる周知を図る。 | 計画 | 14,200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 14,200 | |
| | | | | | | | | 実績 | 7,119 | 0 | 0 | 0 | 7,119 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 7,081 | 0 | 0 | 0 | △ 7,081 | | |
| | | 43P～ | ② | 子どもを産み育てやすい環境づくり (健康福祉課) | 年度内30万円、通算5年度を限度とし、不妊治療に要した額を全額補助する。 妊娠届時より、出産・育児等に関する相談や情報発信等の支援と共に、経済的負担軽減のため、計10万円相当の支援金も支給する。 | ・不妊治療費助成については実績1件。 ・子育て支援アプリでは、予防接種や健診のプッシュ通知、イベントなど子育てに関する情報発信を行った。また、保健師による妊娠届出時と新生児訪問時に伴走型相談支援を行い、出産子育て応援交付金の交付を行った。 | C | 児童館事業や保健師による相談支援体制の充実、出産子育て支援アプリの登録を推進し、情報発信等を充実することによる子育て支援の充実を図る。 | 計画 | 3,098 | 1,333 | 333 | 0 | 0 | 1,432 |
| | | | | | | | | | 実績 | 1,600 | 799 | 232 | 0 | 0 | 569 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | △ 1,498 | △ 534 | △ 101 | 0 | 0 | △ 863 |
| | | 49～50P | ③ | 保育サービスの充実 (健康福祉課) | 保育事業の安定的な実施のため、保育園に対する各種補助を行う。 | 保育園においては、継続して延長保育を実施するなど保育サービス提供を行った。また、児童館においても継続して一時預かり事業や親子で参加できる事業等に取り組むなど乳幼児が少ない中でも交流できる環境などの提供を行った。 | B | 延長保育の継続実施、交流の場の創出に取り組む。 | 計画 | 73,747 | 31,024 | 17,012 | 0 | 2,088 | 23,623 |
| | | | | | | | | | 実績 | 77,736 | 36,889 | 16,134 | 0 | 2,545 | 22,168 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | 3,989 | 5,865 | △ 878 | 0 | 457 | △ 1,455 |
| | 第2節 子ども・若者支援の充実 | ① | 地域環境づくりの促進 (教育委員会) | 「21世紀松崎町3つの実践運動」及び「地域の青少年声掛け運動」の周知と活動推進を図る。 | 年度当初の区長会での啓発などの取り組みを行った。 | B | 3つの実践運動のさらなる推進を図る。 | 計画 | 600 | 0 | 0 | 0 | 0 | 600 | |
| | | | | | | | | 実績 | 600 | 0 | 0 | 0 | 0 | 600 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 51P～ | | ② | 青少年活動の促進 (教育委員会) | スポーツ少年団(野球、サッカー、ソフトテニス、バレーボール)への補助金の交付により活動を支援する。 ウェルネスまつぎによる各種スポーツ教室の立ち上げ支援により、青少年のスポーツに触れる機会を提供する。 | スポーツ少年団に対する助成やウェルネスまつぎへの支援を通して、青少年のスポーツ振興を図った。また、青少年健全育成に寄与する講演会や、街頭キャンペーンなどを行った。 | B | 引き続き、スポーツ少年団、ウェルネスまつぎ等の青少年スポーツの活性化を目指す。 | 計画 | 200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200 | |
| | | | | | | | | 実績 | 225 | 0 | 0 | 0 | 0 | 225 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 | |
| 第3節 幼児教育の充実 | ① | 家庭教育支援の充実 (教育委員会) | 幼児教育アドバイザーを活用し、効果的な幼児期の就学前教育を推進するとともに、幼小の架け橋期の連携を行う。 また、保育園と幼稚園の交流により園児の協調性を養うとともに、小1ギャップの解消を図る。 | 幼児教育アドバイザーの支援をいただき、講演会などを通じ架け橋期の保護者に向けた支援を行った。また、年長児の小学校訪問などを行うことで架け橋期の連携に努めた。 | B | 引き続き幼児教育アドバイザーを活用した取組の推進、小1ギャップの解消に向けた取組の推進を図る。 | 計画 | 350 | 0 | 0 | 0 | 0 | 350 | | |
| | | | | | | | 実績 | 226 | 0 | 0 | 0 | 0 | 226 | | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 124 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 124 | | |
| | 57P～ | ② | 子育て支援活動の充実 (教育委員会) | 預かり保育を行い、園児や保護者に寄り添った取り組みを行う。 防災訓練(園児訓練及び職員訓練)を行い、不意の災害に備える。 | 保護者のニーズをつかむことを心掛け、預かり保育の時間や期間の工夫を行った。 | B | 家庭の実態に合った「預かり保育」を実践していく。 | 計画 | 1,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,000 | |
| | | | | | | | | 実績 | 924 | 0 | 0 | 0 | 0 | 924 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 76 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 76 | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | |
|----------------------|------|----------------|---------------------------------|---|--|--|---|-----------------------------------|---------|---------|----------|----|---------|---------|----------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | |
| 第4節 学校教育の充実 | ① | 65～66P | 地域と連携した教育内容の充実 (教育委員会) | 地域学校協働本部事業を展開しコミュニティースクールの実現を図る。 (下校支援、学習支援など) | R6においても「先生大集合」に取り組むことで、幼稚園から高校までの連携した取り組みに寄与する活動を行った。南伊豆町との連携により、ICT支援員によるサポート体制を構築した。 | B | 西豆(特に松崎)に誇りと愛着を持つ子供たちの育成に重点を置く。 | 計画 | 1,200 | 300 | 300 | 0 | 0 | 600 | |
| | | | | | | | | 実績 | 224 | 70 | 70 | 0 | 0 | 84 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 976 | △ 230 | △ 230 | 0 | 0 | △ 516 | |
| | 63P～ | ② | 67～68P | 教育環境の整備 (教育委員会) | 学校給食共同調理場を建築し、安全な給食を安定して提供する。 校舎や学習環境を効果的に管理することで、安定した学習環境を維持する。 | 校舎の老朽化による問題点については、学校と事務局で十分な情報共有を行い対応にあたった。 松崎高校の存続に向けた取り組み推進のため、松崎高校と意見交換を行った。 | B | 費用対効果に十分に配慮し、スピード感をもって対応にあたる。 | 計画 | 315,000 | 108,333 | 0 | 180,000 | 0 | 26,667 |
| | | | | | | | | | 実績 | 345,483 | 68,904 | 0 | 247,900 | 25,104 | 3,575 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | 30,483 | △ 39,429 | 0 | 67,900 | 25,104 | △ 23,092 |
| 第5節 生涯学習とリカレント教育の充実 | ① | 71～72P | 生涯学習活動の促進 (教育委員会) | 町民のニーズに応じた各種生涯学習講座や教室を開催する。 | 企画観光課と協働し、歴史文化講座を開設した。 | C | これまでの取り組みに縛られない新たな視点が持って、生涯学習活動の促進に取り組む。 | 計画 | 350 | 0 | 0 | 0 | 0 | 350 | |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 350 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 350 | |
| | 69P～ | ② | 73～74P | 関係機関との連携の促進 (教育委員会) | 2030松崎プロジェクトやJUSA等、町と協定を結んでいたり繋がりを持っている大学、企業等の協力を得た新たな学習機会の提供を行う。 | 外部人材を講師とした小中学校での講演などの学習機会の提供を検討し、7年度で実施予定である。 大学、企業の協力も模索しているが、実働まで至っていない。 | C | 松崎町出身者など外部人材を講師とした学習機会の提供を検討していく。 | 計画 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ③ | 75～76P | リカレント教育の促進 (教育委員会) | 大学や企業と連携したリカレント学習講座を開催する。 ・JUSAによるICT関係講座 ・部活動地域移行に向けたスポーツ指導者の養成講座 | 社会教育委員会などで、リカレント教育推進のための話題を持った。 | D | ニーズの把握と効果的な展開について検討していく。 | 計画 | 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 500 | |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 500 | |
| 第6節 スポーツ・レクリエーションの振興 | ① | 77P～ 79～80P | スポーツ・レクリエーション参加意識の高揚 (教育委員会) | ・スポーツ・レクリエーションに興味を持ってもらうためのスポーツ講演会を実施や実際にスポーツに触れる機会を提供する。 ・体育施設の維持監理を行い、充実したスポーツ環境を整える。 ・体育施設をより使いやすいものとするため、スマートロック、予約管理等のシステムを導入する。 | 体育施設に予約システム、スマートロックシステムを導入することにより、利用者の利便性向上を図った。 | B | ・体育協会やスポーツ推進委員を活用し、スポーツ振興を図る。 ・導入した予約システム等の周知を図り、管理側の業務負担軽減を目指す。 | 計画 | 11,950 | 5,000 | 0 | 0 | 0 | 6,950 | |
| | | | | | | | | 実績 | 6,417 | 4,380 | 0 | 0 | 0 | 2,037 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 5,533 | △ 620 | 0 | 0 | 0 | △ 4,913 | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | |
|------------|-------------|----------------------|--|---|--|--|--|---|---------|---------|------|----|-------|---------|--------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | |
| Ⅲ | 第1節 観光の振興 | ① | 体験型観光の推進 (企画観光課) | ・体験事業のニーズ把握・新規体験メニューの創出 ・ホームページ等を活用した情報発信 ・教育旅行の誘致 ・事務局の体制整備の強化 | ・グリーンツーリズムインストラクター育成スクール卒業生の情報交換会の開催(参加者16名) ・ホテル鑑賞ツアーの開催(参加者108名) ・草花染め教室の開催(参加者28名) ・教育旅行の受け入れ(1校51名は松崎町観光協会へ委託・2校127名はまつぎ荘による誘致) | C | 積極的に教育旅行を誘致したいところではあるが、受け入れ先の減少、事務局予算の縮小により、積極的に教育旅行を営業することが難しい状況。教育旅行は、固定客の確保を軸にしつつ、新たな取り組みを模索する。 | 計画 | 7,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,000 |
| | | | | | | | | 実績 | 4,767 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4,767 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 2,233 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 2,233 | |
| | | 81P～ | ② | 町営観光施設の活用促進 (企画観光課) | ・町有観光施設の維持・修繕 ・道の駅花の三聖苑の整備活用 ・旧依田邸の文化財保存及び整備活用 | ・天城山房の売上は前年度比2,028千円増の112.0%となった。地域住民の利用増に重点を置き、地域住民が利用しやすい価格帯の新メニュー開発、地域住民が中心となるイベントの協力、町内を中心としたPRに努めた。 ・大沢温泉依田の庄の入浴者数は23,589人で前年度比108.4%となった。混雑時間に偏りがあることから利用者のタイムシフトを狙い、早割り回数券を販売した。 | C | 道の駅内の天城山房の売上は上がっており、コロナ前の状態へ回復基調にある。道の駅を大沢地区中心の町内回遊拠点化への取り組みを模索する。 | 計画 | 5,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,000 |
| | | | | | | | | | 実績 | 32,373 | 0 | 0 | 5,357 | 0 | 27,016 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | 27,373 | 0 | 0 | 5,357 | 0 | 22,016 |
| | 第2節 農林漁業の振興 | ① | 農業の振興 (産業建設課) | 1町内で担い手等関係者と協議をし、地域の将来の農業の在り方を協議して集約等も踏まえた目標地図を作成していく。 2桜葉振興会への補助金、支援学校との農福連携等 3有害獣等被害防止対策事業補助・有害鳥獣捕獲報奨金等 | ・農業振興会と連携し、振興会への入会者を2名確保した。 ・農業関連法人が事業・営農の規模拡大を図れるよう、農地の確保や必要な法手続きについての支援を行った。 ・現地調査結果に基づく所有者への働きかけや荒廃農地等の保全に係る活動への補助、補助制度を活用して整備した機械の利用により保全管理の推進を図れた。 ・桜葉関連の新品種の生産体制の構築に向けた支援を行った。 ・初出店のものも含めた物産展などの各イベントに農業振興会として出店し、地場産品をPRすることができた。 | C | 今後も就農者や農業法人等の担い手の確保、農地の維持管理の推進、基盤整備による集約化の推進、物産展などでの地場産品のPRや加工品の商品化などによる販路の拡大活動を通して農業の振興を図っていく。また、鳥獣害対策を充実させ、農業を守る活動も併せて図っていく。 | 計画 | 7,272 | 300 | 0 | 0 | 0 | 6,972 | |
| | | | | | | | | 実績 | 3,618 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,618 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 3,654 | △ 300 | 0 | 0 | 0 | △ 3,354 | |
| | | 87P～ | ② | 林業の振興 (産業建設課) | 森林経営管理制度の実施に伴う全体計画が策定され、所有者に対してアンケート実施や結果により現地調査をし、整備の検討を行う。倒木の危険性のある箇所予防伐採業務を行う。 | ・森林環境譲与税を活用し、森林内の道路付近の支障となる樹木伐採など当初予定していた事業を実施することで今後の森林整備に繋げることができた。 | C | 他自治体の事例を参考にしながら、森林環境譲与税を効果的に活用した森林整備を推進し、木材の財産価値を高めるとともに、森林機能の強化を図り、併せて林業に携わる人財の育成も図っていく。 | 計画 | 12,500 | 0 | 0 | 0 | 12,500 | 0 |
| | | | | | | | | | 実績 | 8,703 | 0 | 0 | 0 | 8,703 | 0 |
| | | | | | | | | | 差引増減 | △ 3,797 | 0 | 0 | 0 | △ 3,797 | 0 |
| 第3節 商工業の振興 | ① | 商工業の活性化 (企画観光課) | ・空き店舗の利活用 ・新規創業者や商業活性化の核となる店舗の取組への支援 | 地域商工業の活性化を図る目的で、商工会と連携し、活動を支援した。空き店舗の活用について具体的な活動計画を構築するために、議論を進めている。 | D | 空き店舗活用のノウハウを蓄積するために、事例研究を行う。 | 計画 | 500 | 0 | 0 | 0 | 0 | 500 | | |
| | | | | | | | 実績 | 130 | 0 | 0 | 0 | 0 | 130 | | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 370 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 370 | | |
| | 93P～ | ② | 中小企業の経営支援 (企画観光課) | ・各種利子補給事業 ・事業所振興情報交換会による情報共有 ・町内事業者の事業継続支援策等の検討・実施 | 経済対策融資資金利子補給は18件の申請があった。コロナ対応の利子補給からスムーズにシフトすることができ、資金繰りの面で町内の商工業者を支援することができた。 | B | 利子補給で、中小企業の資金繰りを短期的に支えていくだけでなく、事業者が長期的に松崎町に残り続けるように事業継承の支援にも力を入れていく。 | 計画 | 3,516 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,516 | |
| | | | | | | | | 実績 | 1,171 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,171 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 2,345 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 2,345 | |
| 99～100P | ③ | 特産品の開発と活用 (企画観光課) | ・商工会商工業振興対策事業(「松崎ブランド」創出展開支援事業 ・商工会地域振興実現化事業(商工会女性部特産品開発事業) | 松崎ブランドについては、新たな認定商品として1品目を認定した。(23事業所 39品目)WEBや展示会等により、認定商品の周知及び販売を行った。また、商工会女性部による特産品も商品化され「桜葉はんぺん」を河津さくらまつりで試験的に販売し、大きな反響を得た。 | C | 開発した商品や認定した松崎ブランド商品の販路開拓、広報の戦術レベルの研究と実践が必要 | 計画 | 200 | 0 | 0 | 0 | 0 | 200 | | |
| | | | | | | | 実績 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 100 | | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | |
|---|--------------|----|-----------------------|---|---|----|--|----------|---------|-------|------|----|-----|---------|-------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | |
| | 第4節 新たな産業の振興 | ① | 地域資源の保全と活用 (企画観光課) | ・柵田振興協議会の運営補助 ・柵田活用のイベント及び大学連携に対する補助 | 柵田保全については、担い手不足が大きな課題である中で、地域おこし協力隊や協力隊OB、2地域居住者、柵田オーナーなど外部からの協力者の尽力により、作業の効率化を図り、作業及びオーナー会員の受入れ等予定していた事業を行うことができた。また、国の交付金を活用し、茅葺きの水車小屋の修繕や畦板の試験的設置など新たな取り組みを行うことができた。 | B | 地域おこし協力隊やオーナー会員の移住促進など、新たな担い手の確保に努める。また、国の交付金を活用した水位センサーの設置など、作業効率の向上に努める。 | 計画 | 1,600 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,600 |
| | | | | | | | | 実績 | 1,263 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,263 |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 337 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 337 | |
| | 101P～ | ② | ワーケーションの推進 (企画観光課) | ・コンソーシアム体制の構築 ・ホームページの運営 ・町有施設の利活用・運営 ・町内外ネットワークの構築 | 県の補助金が令和5年度で終了し、当初、委託事業を引き続き行う予定だったが、事業推進体制を見直し、実施しないこととした。整備した施設の維持管理及び施設活用の推進に努めた。 | C | 人手不足から力を入れていくことが難しい状態はあるが、現状の施設の維持管理を行いつつ、施設の運営面の改善に取り組む。 | 計画 | 3,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,000 |
| | | | | | | | | 実績 | 196 | 0 | 0 | 0 | 0 | 196 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 2,804 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 2,804 | |
| | 107～108P | ③ | 新たな働き方の支援 (企画観光課) | 地域の仕事を組み合わせて年間を通じた仕事を創出する「特定地域づくり事業協同組合」の設立を支援する。 令和5年度は県主催による勉強会を開催した。制度に興味のある事業者には概ね制度概要が伝えられたと思われるが、具体的な動きはまだ見られない。 | 特定地域づくり事業協同組合については、中心となる人や企業・団体の発掘が難しく、進んでいない。 | D | 必要性やニーズを再度確認し、事業の推進を検討したい。 | 計画 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | | | |
|---------------------------------|-------------------|----------------------|--|---|---|--|--|--|----------|---------|------|----|-----|---------|---------|-------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 | | |
| IV 豊かな社会・自然環境を次代へつなぐ、持続可能なまちづくり | 第1節 環境保全と脱炭素社会の促進 | ① | 景観づくりの推進 (企画観光課) | ・なまこ壁の建造物等の補助制度の創設(R6開始予定) ・なまこ壁を活かした景観づくりの推進(重点地区計画の策定(R7予定)・街なみ環境整備事業の実施(R8予定)・歴史的風致維持向上計画の策定) | ・景観計画に基づき、なまこ壁建造物の保存のための補助金交付要綱を定めた。 ・なまこ壁技術伝承事業により、32㎡のなまこ壁修繕を行った。 ・花いっぱい運動での各種事業により、環境づくりを推進した。 | B | なまこ壁建造物保存のための景観資産の指定をはじめとした、景観計画に基づいた景観計画の推進を図る。 | 計画 | 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,000 | |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 2,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 2,000 | | |
| | 109P～ | ② | ごみ減量とリサイクルの促進 (生活環境課) | 広域ごみ処理施設の設置、管理及び運営 焼却施設竣工予定(R9年度中→R11年度中) 資源化施設竣工予定(R11年度末→R13年度末) | ・ごみの分別や減量化について、広報紙などを通じて周知を図った。 ・南伊豆地域清掃施設組合(構成市町:下田市、南伊豆町、西伊豆町、松崎町)で焼却施設建設に係る入札執行を予定していたが、事業費高騰のため、下田市からの申し入れにより入札延期となった。 | D | 下田市長の判断待ち。 | 計画 | 8,892 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8,892 | |
| | | | | | | | | 実績 | 12,113 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12,113 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 3,221 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,221 | | |
| | 第2節 文化財の保護と活用 | ①-1 | 文化財の保護・保存 (教育委員会) | ・指定文化財の保存状況の把握、所有者との情報共有を行う。 ・未指定文化財を調査、研究し、重要なものから指定を進める。 | 文化財の計画的な保存に向けて計画的に取り組むための方針を検討した。 | B | 地域計画策定に向けた取り組みを行う。 | 計画 | 100 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 100 | |
| | | | | | | | | 実績 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 17 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 83 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 83 | | |
| | | 115P～ | ①-2 | 文化財の保護・保存 (企画観光課) | ・なまこ壁技術伝承事業 ・鏝絵のまち推進事業 ・フェスタ長八 ・長八作品保存業務 | 第24回全国漆喰鏝絵コンクール作品展では、応募作品の中から入賞作品15点を伊豆の長八美術館へ展示した。また、併せて民芸館3階で佳作展を実施した。 | B | 引き続き長八の伝統を踏まえた作品や新しい時代にふさわしい自由な発想と技法の作品を募集し、鏝絵の更なる展開を図る。 | 計画 | 5,490 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5,490 |
| | | | | | | | | | 実績 | 2,830 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2,830 | |
| | | | | | | | | | 差引増減 | △ 2,660 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 2,660 | |
| 121～122P | | ②-1 | 文化財の活用 (教育委員会) | 重要文化財岩科学校の維持管理を行うとともに、耐震化を進める。 | 地域計画を策定し財源を確保しながら推進していく方向づけを行った。 | B | 地域計画策定に向けた取り組みを行う。 | 計画 | 12,000 | 5,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,000 | |
| | | | | | | | | 実績 | 1,178 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,178 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 10,822 | △ 5,000 | 0 | 0 | 0 | △ 5,822 | | |
| 123～124P | | ②-2 | 文化財の活用 (企画観光課) | ・旧依田邸離れの一般公開 ・有料公開に向けての検討、調整 ・旧依田邸独自のお土産(特産物)の検討、商品化 | 旧依田邸文化財については、NPO法人伊豆学研究会に委託し、裂織教室・作品展を開催した。その他、米蔵を活用した展示等を実施した。 | B | 旧依田邸でのワークショップ等の開催回数を増やすことにより、旧依田邸の文化財の価値を再認識し、保全への意識高揚を図る。 | 計画 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | | | | | | | | 実績 | 100 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | | | 差引増減 | 100 | 0 | 100 | 0 | 0 | 0 | | |
| 第3節 文化活動の推進 | ① | 芸術文化活動の推進 (教育委員会) | 文化協会と連携し、芸術祭、芸能発表会を開催する。また、新たな会員獲得や多くの住民に参加してもらえるよう町ホームページなどにより文化活動の積極的なPRを行う。 | 松崎町文化協会で行うとともに、発表の場として芸術祭、芸能発表会を開催した。 | B | 活動を維持していくことが重要。 | 計画 | 425 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 425 | | |
| | | | | | | | 実績 | 425 | 0 | 0 | 0 | 0 | 425 | | | |
| | | | | | | | 差引増減 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | |
|-------|---|----|---|--|--|----|---|-----------|----------|--------|----------|----------|--------|---------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 |
| | 第4節 上下水道と温泉の整備 | ① | 水道事業の安定化 (生活環境課) 131～132P【水道事業会計】 | 経営戦略に基づき、施設の健全度を確保し、供給の安定化、経営の安定化を図る。 | ・伏倉配水池実施設計(基本設計)業務委託を完了した。 ・料金改定について公営企業委員会で審議を行い、9月議会へ条例改正案を提出し、可決された。 | B | 伏倉配水池の更新に向け、送配水管新設の設計委託や工事を発注する。 | 計画 | 201,000 | 45,000 | 0 | 81,000 | 75,000 | 0 |
| | | | | | | | | 実績 | 32,736 | 0 | 0 | 0 | 29,760 | 2,976 |
| | 差引増減 | | | | | | | △ 168,264 | △ 45,000 | 0 | △ 81,000 | △ 45,240 | 2,976 | |
| | 129P～ | ② | 温泉事業の安定化 (生活環境課) 133～134P【温泉事業会計】 | 経営戦略に基づき、施設の健全度を確保し、供給の安定化、経営の安定化を図る。 | ・日常点検、定期的な保守点検による施設の健全度の確保を図った。 ・温泉の魅力を発信するために温泉配達事業を行い、令和6年度は7軒に配達し、新聞報道により町営温泉を町内外に発信した。 | B | 日常点検や定期的な保守点検を欠かさずに行うことにより施設の健全度を確保し、今後も継続して温泉を安定的に供給するとともに、経営の安定化を図る。また、現在の経営戦略が策定から5年を経過するため、改定を行う。 | 計画 | 3,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3,000 |
| | | | | | | | | 実績 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 3,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 3,000 |
| | 第5節 道路・交通網の整備 | ① | 道路・橋梁の整備 (産業建設課) 137～138P | 1地区の要望や道路パトロールに基づき町道の整備を推進 2伊豆縦貫自動車道や国道136号、県道下田松崎線、県道南伊豆松崎線などの国道・県道について、継続した改善要望活動を国や県に対し実施 3橋梁の長寿命化を図るため、点検補修を推進 | ・地区要望等に基づき、町道松下線区画線舗装補修工事他9件の工事を行った。 ・要望活動については、伊豆縦貫自動車道の早期開通要望や国道の改良整備要望について近隣市町と連携し実施した。 ・橋梁については、伏倉橋補修工事を繰越工事に発注、昨年度からの繰越工事である宮沢橋の補修工事を完了、22橋の点検、13橋の修繕を実施した。 | B | 国県道、伊豆縦貫道の整備について、引き続き要望活動を実施していく。地区要望に基づき、町道整備を引き続き進めていく。橋梁の長寿命化修繕計画に基づき点検修繕を進めていく。 | 計画 | 126,600 | 74,237 | 0 | 47,000 | 5,000 | 363 |
| | | | | | | | | 実績 | 108,854 | 28,499 | 0 | 38,500 | 990 | 40,865 |
| | 差引増減 | | | | | | | △ 17,746 | △ 45,738 | 0 | △ 8,500 | △ 4,010 | 40,502 | |
| | 135P～ | ② | 公共交通の充実 (企画観光課) 139～140P | ・自主運行バスの継続と精査(R5池代便の見直し検討中) ・地域のニーズに合わせた新たな運行方法を検討するための実証実験、運行手段の確立 ・デマンド型バス実証実験(R5.2月～) | ・県と協同で進める自動運転実証実験の実施やミズベリング会議と協同した自動運転実証実験を実施した。 ・自主運行バスの減便を行った。 | B | 自主運行バスのあり方、地域のニーズの合った運行方法を模索していく。 | 計画 | 38,000 | 0 | 9,000 | 0 | 0 | 29,000 |
| | | | | | | | | 実績 | 33,941 | 0 | 4,045 | 0 | 0 | 29,896 |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 4,059 | 0 | △ 4,955 | 0 | 0 | 896 |
| V | 第1節 行政のデザイン コンパッションを共有し、“きょうどう”を進めるまちづくり | ① | 職員の資質向上 (総務課) 141P～ | 職員の目標・活動・組織・待遇の魅力を向上させるための調査・分析・施策提案等を委託するとともに、町村会が主催する各種の研修会に参加することによる計画的なキャリアマネージメントにより高い専門性と創造性を身につけ政策課題にあたる。 | ・人材育成支援事業では、サーベイによる職員の意識や実態の把握、職員の相互尊重の意識向上を図るために有志職員によるワークショップなどを行った。 ・研修では、新規採用職員の地方自治法、地方公務員法、公務員倫理などの、オンラインによる研修を行い、公務員の基礎的な知識の習得に繋げることができた。また、町村会等が主催する各種研修会に延べ26名参加し、職員の資質向上に繋げることができた。 | C | 引き続き、研修の継続や各種研修への参加により、職員の人材育成、モチベーションの向上を図る。 | 計画 | 6,192 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,192 |
| | | | | | | | | 実績 | 6,127 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6,127 |
| | 差引増減 | | | | | | | △ 65 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 65 | |
| | 第2節 地域のガバナンスときょうどう | ① | コミュニティの再構築 (企画観光課) 147～148P | ・各地区への支援(原材料支給、自治会保険、公民館改修) ・地区コミュニティの活性化、再構築に向けた新たな取り組みの検討 | ・各地区コミュニティ施設の修繕や物品購入に対する助成等を実施した。 ・地域のイベントの実施について、各地区と協議を行った。 | C | どの地区も高齢化、担い手不足によりコミュニティイベントができなくなっている。伝統文化の保存・継承も含め、町の協力方針を検討する。 | 計画 | 2,923 | 0 | 0 | 0 | 1,333 | 1,590 |
| | | | | | | | | 実績 | 3,382 | 0 | 0 | 0 | 2,500 | 882 |
| | | | | | | | | 差引増減 | 459 | 0 | 0 | 0 | 1,167 | △ 708 |
| 145P～ | | ② | 住民参画の促進 (企画観光課) 149～150P | ・花いっぱい運動の推進 ・コミュニティ活動に対する助成の拡大 ・町政懇談会の開催 ・コミュニティ団体交流会の開催 | ・コミュニティ活動に対し、3件の助成を行った。 ・4地区で町政懇談会を実施した。 ・コンパッションタウンに係るまちのつなぎ役のための学び合い講座を計8回開催し、勉強会やワークショップ、チームによる活動を行った。 | B | コミュニティ活動に対する助成について積極的な周知に努める。まちのつなぎ役のための学び合い講座は継続して実施し、住民のまちづくりへの参画を促す。 | 計画 | 22,960 | 0 | 202 | 0 | 1,429 | 21,329 |
| | 実績 | | | | | | | 21,225 | 0 | 0 | 0 | 266 | 20,959 | |
| | 差引増減 | | | | | | | △ 1,735 | 0 | △ 202 | 0 | △ 1,163 | △ 370 | |

第6次総合計画 実施計画【令和6年度】 事業一覧

「評価欄」この1年間の取り組みの評価（計画に掲げた施策（目標）に対して、この1年間でやるべきことができたかどうか）
 A：目標を上回るものだった B：目標は達成できた C：目標は概ね達成できた D：目標に達しない取り組みが多かった E：ほとんど目標を達成できなかった 単位：千円

| 章 | 節 | 番号 | 主要施策名 | 事業概要 | この1年間でできたこと | 評価 | 今後の展開(力点) | 令和6年度事業費 | | 財源内訳 | | | | |
|----------------------|----------|-----------------------------------|---|---|---|---|---|----------|----------|---------|-------|-------|---------|---------|
| | | | | | | | | 計画 | 実績 | 国庫支出金 | 県支出金 | 町債 | その他 | 一般財源 |
| 第3節 スマート自治体・デジタル化の推進 | ① | デジタル化の普及促進 (企画観光課) 153～154P | 社会全体でスマートフォンやインターネットなどによる情報化社会への進展が加速化しており、時代の流れに則した情報通信メディアの普及を促進します。 具体的にはデジタルデバイド対策として、スマートフォンの購入費用助成や利用講座を実施します。 SNSを活用した情報発信などを検討します。 | ・窓口収納キャッシュレス決済導入事業(窓口税務課)、体育施設における予約システム・スマートロックシステムの導入事業(教育委員会事務局)を実施し、デジタル化の普及が図られた。 ・高齢者スマートフォンの普及事業は、14人の方に助成を行った。 ・地域活性化起業人を中心にスマホ教室を計35回(延べ264人)実施し、デジタルデバイド対策に務めた。 | C | 導入されたキャッシュレス決済や予約システム、スマートロックシステムの他業務、他施設への拡張を検討し、デジタル化の普及を図る。引き続きスマホ教室を開催し、デジタルデバイド対策に努める。 | 計画 | 800 | 0 | 0 | 0 | 0 | 800 | |
| | | | | | | | 実績 | 137 | 0 | 0 | 0 | 0 | 137 | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 663 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 663 | |
| | 151P～ | ②-1 | 効率的な行政事務の推進 (企画観光課) 155～156P | ・基幹システムの標準化 ・電子申請システムの活用 ・電子決済の推進 ・ICT活用人材の育成 | ・標準準拠システムへの移行準備 ・ガバメントクラウド接続に関する準備、構築 ・情報資産管理システムの効率的運用 | B | 令和7年度末までの標準準拠システムへの移行に向け、業務影響等が発生しないよう移行作業を行う。 Windows10サポート終了に伴うwindows11への移行や、インターネット端末の更改等、職員が効率的かつ快適に業務を行えるよう整備していく。 | 計画 | 95,000 | 15,000 | 0 | 0 | 0 | 80,000 |
| | | | | | | | | 実績 | 84,274 | 6,106 | 0 | 0 | 0 | 78,168 |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 10,726 | △ 8,894 | 0 | 0 | 0 | △ 1,832 |
| 157～158P | ②-2 | 効率的な行政事務の推進 (窓口税務課) | ・マイナンバーカード申請受付の休日・夜間の窓口開設、個人宅・企業への出張申請受付の実施、広報チラシの配布等を行う。 ・住民票の写し、印鑑登録証明書のコンビニ交付 ・引越しワンストップサービスの導入 | マイナンバーカード未取得者で、高齢等の理由で外出が困難な人を対象に、1カ月間出張申請サポートを行い、取得率向上を図った。 また、広報紙への掲載などによりマイナンバーカード取得推進のPRを行った。 | B | マイナンバーカード更新対象者増加に伴い、平日日中に手続きが困難な人が期限切れにならないよう、時間外窓口対応や休日窓口を開設する。 また、健康保険証の一本化したことに伴い健康福祉課とも連携を図り、更なる交付率の向上のためのPRを継続していく。 | 計画 | 3,769 | 979 | 0 | 0 | 0 | 2,790 | |
| | | | | | | | 実績 | 2,968 | 164 | 0 | 0 | 1,402 | 1,402 | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 801 | △ 815 | 0 | 0 | 1,402 | △ 1,388 | |
| 第4節 広域行政・地域間交流の推進 | ①-1 | 広域連携の推進 (窓口税務課) 159P～ | 一部事務組合により西伊豆町と共同で新斎場の整備を行う。 ・基本設計、実施設計、火葬炉設備工事、建設工事等 ・負担割合：均等割20%、人口割80%(西伊豆町54.0%、松崎町46.0%) ・全体事業費：R6 18,054千円、R7 88,510千円、R8 852,900千円 | 火葬炉及び基本設計事業者を選定し、計画どおり基本設計業務が完了した。 | B | 令和9年4月の稼働に向け、令和7年度においては、実施設計を行い、本工事に着手する予定。 | 計画 | 10,085 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10,085 | |
| | | | | | | | 実績 | 11,398 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11,398 | |
| | | | | | | | 差引増減 | 1,313 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,313 | |
| | 163～164P | ①-2 | 広域連携の推進 (企画観光課) | ・広域連携需要にあった施策を精査し、賀茂地域広域連携会議での検討を継続していきます。 ・現状の消費者行政、滞納整理、指導主事の共同設置などに続く、事務の共同化の検討を進めます。 | 賀茂広域連携会議や伊豆半島7市6町首長会議で諸問題に対する広域対応について協議している。 | B | 引き続き、広域連携について検討・協議していく。賀茂地域広域連携会議では、各市町の課題に焦点を当て、協議していく予定。 | 計画 | 5,676 | 0 | 181 | 0 | 0 | 5,495 |
| | | | | | | | | 実績 | 5,500 | 0 | 211 | 0 | 0 | 5,289 |
| | | | | | | | | 差引増減 | △ 176 | 0 | 30 | 0 | 0 | △ 206 |
| 第5節 新たな人の流れの創出 | ① | 関係人口の拡大 (企画観光課) 167～168P | ・「日本で最も美しい村」連合サポーター企業や加盟町村、新たな地域との交流、連携の構築。 ・美しい村DAOの推進 ・大学生のフィールドワーク、ボランティア活動、インターンシップの受け入れなど、大学との連携事業の推進 | ・大学連携では、新たに一般社団法人コレラガとの連携を開始。様々な大学から地域づくりに意欲ある学生13名が参加し、松崎町で3泊4日のFWを実施した。その他、静岡大学、立教大学ESD研究所、常葉大学との連携事業を推進した。 ・美しい村DAOの取組については、田んぼを使った花畑などのNFTの販売を実施し、事業推進に努めた。 | C | マンパワー不足が課題であることから、連携事業の目的、成果等の判断から精査し、効果的な取組を重点的に進めたい。 | 計画 | 1,630 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,630 | |
| | | | | | | | 実績 | 1,605 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1,605 | |
| | | | | | | | 差引増減 | △ 25 | 0 | 0 | 0 | 0 | △ 25 | |
| | 165P～ | ② | 移住・定住の推進 (企画観光課) 169～170P | ・空き家バンク制度や空き家改修補助による住まいの確保 ・起業支援助成による移住サポート ・移住者受入体制の構築(移住希望者滞在支援補助(R5開始)、移住相談、暮らしの情報発信、移住後のサポートなど) 【R4実績】移住：16組24人、空き家改修補助9件、空き家バンク登録18件 | ・移住定住促進協議会への委託事業として、移住相談対応、首都圏における移住相談、現地移住体験会、ポータルサイト・SNSによる情報発信、町内空き家管理相談会の実施等、様々な取組を行った。昨年を大きく上回る移住相談件数となった。 | B | 引き続き、移住定住促進協議会を中心に情報発信等に努めるとともに、空き家バンクの登録強化を図り、移住・定住の推進に取り組む。 | 計画 | 10,300 | 0 | 2,250 | 0 | 1,000 | 7,050 |
| | | | | | | | | 実績 | 14,129 | 0 | 4,500 | 0 | 1,232 | 8,397 |
| | | | | | | | | 差引増減 | 3,829 | 0 | 2,250 | 0 | 232 | 1,347 |

第6次総合計画 実施計画 【令和6年度】目標指標実績値一覧

| 施策コード | ■□目標指標□■ | 単位 | 現状値 | 各年度の実績値 | | | | | 目標値 | 指標実績に係る評価等 | 担当課 | |
|-------|----------|----------------------|-----|---------|--------|--------|-------|-------|-----|------------|--|-------|
| | | | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | | | | |
| 1 | I - 1 | 災害協定・覚書件数 | 件 | 40 | 47 | 50 | | | | 45 | R9年度の目標値は超えているが、様々な業務等で関係機関と連携強化を図っていく必要がある。また、協定を結んだだけにならないよう、平時でも協力できる体制を築いていきたい。 | 総務課 |
| 2 | I - 1 | 津波避難タワーの整備 | 基 | 1 | 1 | 1 | | | | 2 | 財源確保などの課題を解決できるよう、町全体の事業計画を早期に作成し、事業を推進していきたい。 | 総務課 |
| 3 | I - 2 | 火災発生件数 | 件 | 0 | 1 | 2 | | | | 0 | R6年度は、2件火災が発生した。1件は船舶火災、もう1件は刈草を燃やしての延焼で、衣服に火が移り火傷を負った。今後も引き続き火災予防を呼びかけていく。 | 総務課 |
| 4 | I - 3 | 地区サロン・通いの場 | 地区 | 9 | 10 | 10 | | | | 10 | 講師派遣などの活動支援や参加の促進などにより既存サロンの活動が維持できた。 | 健康福祉課 |
| 5 | I - 4 | 要介護（要支援）者数 | 人 | 558 | 517 | 531 | | | | 550 | 団塊の世代が75歳を迎え、増加傾向にある。介護予防、重症化防止に取り組むと同時に社会と関わり合い生活できるよう生活支援や介護サービスの充実を図っていく。 | 健康福祉課 |
| 6 | I - 5 | 地域生活への移行による施設入所者数 | 人 | 11 | 10 | 10 | | | | 10 | 施設入所者の地域移行は実現できなかったが、入院施設から障害者施設を経由し、介護施設への移行支援については、関係機関との連携及び支援体制の確保から円滑な移行ができたと考える。 | 健康福祉課 |
| 7 | I - 6 | 健康長寿県内順位（お達者度）男性 | 位 | 30 | 28 | 30 | | | | 28 | 事業の見直しを行いながら、より現状や課題に沿った施策を推進していく必要がある。（R6よりお達者年齢） | 健康福祉課 |
| 8 | I - 6 | 健康長寿県内順位（お達者度）女性 | 位 | 31 | 25 | 33 | | | | 29 | 事業の見直しを行いながら、より現状や課題に沿った施策を推進していく必要がある。（R6よりお達者年齢） | 健康福祉課 |
| 9 | I - 7 | 町の委員会などに占める女性委員の構成割合 | % | 21 | 22 | 22 | | | | 25 | わずかではあるが増加傾向にある。ジェンダーフリーの意識の高まりが現れてきたと思われる。 | 教育委員会 |
| 10 | II - 1 | 年間出生数 | 人 | 14 | 10 | 7 | | | | 17 | 各種施策に取り組んだが、結果として目標達成には至らなかった。引き続き、妊娠・出産・子育ての支援の一助となるよう事業を充実させていく必要があると考える。 | 健康福祉課 |
| 11 | II - 2 | 青少年活動の団体数 | 団体 | 7 | 8 | 8 | | | | 10 | 団体数は増えていないが、活動に広がりが出てきている。 | 教育委員会 |
| 12 | II - 3 | 家庭教育学級の開催数 | 回 | 3 | 3 | 3 | | | | 5 | 目標指標に関し、例年と同様の取り組みを実践した。 | 教育委員会 |
| 13 | II - 4 | 外部講師の人数 | 人 | 5 | 13 | 13 | | | | 25 | 新たな講師を見つけていく必要がある。 | 教育委員会 |
| 14 | II - 5 | 生涯学習講座開設数 | 講座 | 8 | 6 | 6 | | | | 10 | おおむね前年同様の実績となった。 | 教育委員会 |
| 15 | II - 6 | 松崎町体育協会の加盟団体数 | 団体 | 7 | 6 | 5 | | | | 8 | コロナ禍による活動休止から十分に立ち直れず休部となる活動が表れている状況。 | 教育委員会 |
| 16 | III - 1 | 体験型観光事業数 | 事業 | 28 | 28 | 27 | | | | 32 | 新規事業が無かったなか、集客に苦戦し辞めた事業が1件あった。 | 企画観光課 |
| 17 | III - 1 | スポーツ型観光人数 | 人 | 11,529 | 10,889 | 11,179 | | | | 15,000 | ダイビング、スポーツイベント（ITJ）が前年比増となり、全体の観光客数も増加した。 | 企画観光課 |

第6次総合計画 実施計画 【令和6年度】目標指標実績値一覧

| 施策コード | ■□目標指標□■ | 単位 | 現状値 | 各年度の実績値 | | | | | 目標値 令和9年度 | 指標実績に係る評価等 | 担当課 | |
|-------|----------|--------------------------|-----|---------|-------|-------|-------|-------|--------------|------------|---|-------|
| | | | | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | | | | |
| 18 | Ⅲ - 2 | 新規就農者・農業後継者（累計） | 人 | 3 | 4 | 6 | | | | 5 | 意欲的な就農者を確保・育成できている。 | 産業建設課 |
| 19 | Ⅲ - 2 | 認定農業者（累計） | 人 | 14 | 13 | 12 | | | | 17 | 既存の認定者が高齢化しており、経営意欲のある就農者を認定者に育成していく必要がある。 | 産業建設課 |
| 20 | Ⅲ - 3 | 商工業者数 | 人 | 463 | 464 | 438 | | | | 463 | 前年度と比較して商工業者数が減少しているため新たな商工業者を獲得していく必要がある。 | 企画観光課 |
| 21 | Ⅲ - 4 | 新規起業件数 | 件 | 3 | 0 | 8 | | | | 5 | 起業支援等補助金の周知を図ったこともあり、補助金を活用した起業が多く見られた。職種は飲食が多いが、ネイチャーガイドなど新たな産業も生まれている。 | 企画観光課 |
| 22 | Ⅳ - 1 | 資源化率 | % | 15.6 | 15.9 | 16 | | | | 16.4 | 広域化に併せ実施予定であった廃プラスチックの資源化などの実施が難しい状況となり、目標値の達成は困難。 | 生活環境課 |
| 23 | Ⅳ - 2 | 旧依田邸の入場者数 | 人 | 3,937 | 4,162 | 4,167 | | | | 6,000 | 入場者数は横ばいとなっている。物価上昇や修繕増加の影響で経営を圧迫している。経営安定化のためにはオープン時より据え置かれている料金を改定する時期ではないか。 | 企画観光課 |
| 24 | Ⅳ - 3 | 文化協会加盟団体数 | 団体 | 12 | 12 | 12 | | | | 15 | 人口減少が進む中、活発な活動を維持し続けている。 | 教育委員会 |
| 25 | Ⅳ - 3 | 町民一人当たりの貸出冊数 | 冊/年 | 3 | 4 | 4 | | | | 5 | コロナ禍によりいったんは減少したものの微増傾向にある。 | 教育委員会 |
| 26 | Ⅳ - 4 | 合併処理浄化槽設置補助基数（累計） | 基 | 616 | 621 | 643 | | | | 716 | 今後、循環型社会形成推進地域計画の作成を行い、引き続き合併処理浄化槽設置補助制度の内容を検討する。 | 生活環境課 |
| 27 | Ⅳ - 5 | 町道橋梁の耐震化の整備（累計） | 橋 | 16 | 16 | 16 | | | | 30 | 橋梁点検に基づく補修工事が多く、耐震化まで着手できていない。 | 産業建設課 |
| 28 | Ⅴ - 1 | 経常収支比率 | % | 86 | 86.3 | 83 | | | | 83 | 近年は、国の物価高騰対策などの給付金事業等の影響が大きく、比率の増減が見られる。 | 総務課 |
| 29 | Ⅴ - 2 | まちづくり活動支援補助金申請件数 | 件 | 0 | 3 | 2 | | | | 2 | 2030松崎プロジェクトのチームの継続活動により2件の実績となった。引き続き周知に努める。 | 企画観光課 |
| 30 | Ⅴ - 3 | マイナンバーカード交付率 | % | 58.9 | 85.4 | 93 | | | | 75.0 | 広報紙などによるPRや休日窓口の開設の成果もあり、令和5年度で目標値はクリアしている。 | 窓口税務課 |
| 31 | Ⅴ - 3 | スマートフォン利用率 | % | 72.0 | - | - | | | | 85.0 | 現状値は総合計画策定時の住民アンケートの結果に基づくもので、毎年度の実績値は出すことができない。後期基本計画の策定時のアンケート結果で5年後実績値を調査する予定。 | 企画観光課 |
| 32 | Ⅴ - 4 | 広域的共同事務数 | 件 | 3 | 3 | 3 | | | | 4 | 広域的共同事務数の変化はない。教育委員会の共同設置について部会で検討が進められている。 | 企画観光課 |
| 33 | Ⅴ - 5 | 移住相談件数 | 件 | 101 | 67 | 102 | | | | 150 | 移住定住促進協議会を中心とした様々な取組により、移住相談件数の増加という成果は見られる。 | 企画観光課 |
| 34 | Ⅴ - 5 | フィールドワーク等により松崎町を訪れる大学生の数 | 人 | 284 | 320 | 310 | | | | 350 | 早稲田大学の活動が終了した影響があるが、コッレーガ等の新たな取り組みも始まっている。 | 企画観光課 |